

# 『菊人形づくり』が 高浜市指定無形文化財になりました！

「菊人形」とは、菊の衣装をまとった等身大の人形です。切り花は使用せず、すべて“根付き”の菊を使用します。その誕生は江戸時代にまで遡り、170年以上の伝統を誇ります。明治時代には全国各地で菊人形展が流行しましたが、このときに活躍したのが吉浜ゆかりの職人さんでした。娯楽の変化とともに、現在では菊人形を作る職人さんも数少なくなりました。このたび、市では、全国に誇るべきこの「菊人形づくり」の技術が無形文化財に指定しました。市の貴重な財産として後世に伝え、この技術を絶やさぬよう努力していきます。



▲神谷重明さん

## 「菊人形づくり」所持者 かみやしげあき 神谷重明さん(神明町)

### ◆「菊人形づくり」を始めたきっかけは何でしょうか？

父親が菊師(菊人形をつくる職人)の親方をしていたので、自分も自然にこの道へ進みました。昭和26年、16歳の時にこの世界へ入って、初めは野々山さんという方のもとで修業しました。昭和34年からは父親のもとで九州や関西を中心に活動して、昭和63年に父親から親方を引き継いで今にいたります。

### ◆これまで製作したなかで記憶に残った菊人形を教えてください。

歌舞伎ものはかなり難しいので、記憶に残っています。衣装が特徴のあるものばかりなので、まずは構造から勉強しないといけない。そうしないと、胴殻(人形の骨格)を作ることができないんです。また、人形そのものだけでなく、舞台装置も複雑になってくるので、かなり手間がかかる。今年の11月に吉浜地区で行われる「菊まつり」で「暫」を作りますが、これもまた難しいんです。長年職人をしていますが、これまで1度しか作ったことがないんですよ。



▲人形を製作する神谷さん

### ◆菊人形づくりで、最も難しい工程はどんなところでしょうか？

胴殻作りが最も難しいです。この出来しだいで人形の形が大きく変わってきてしまいます。また、菊をつけると全体にボリュームが出るので、それを念頭に置きながら、胴殻は一回り小さく作る必要があります。このあたりは経験がものをいう作業です。

### ◆これから菊人形づくりをやってみようという方にアドバイスをお願いします。

肩先とか襟元を壊さないよう、胴殻の段階から「衣装の線」を意識して作ることが大切です。あとは、菊の付け方も大切。菊の流れを意識しないと、衣装の線が壊れてしまいます。展示後の人形を解体するときも重要で、菊がどのようになっているのかを学ぶチャンスです。こういったことを意識しながら取り組むといいのではないのでしょうか。



▲後輩への指導

## ■「人形小路菊まつり」 11月5日(土)～13日(日)

開会式(5日午前10時～、丸畑公園にて)では、文化財指定書の授与式が行われます。なお、会期中、吉浜駅前の一番館にて神谷重明さん製作の菊人形「暫」が展示されます。

「静の舞」(平成26年製作)▶



問合せ先 団文化スポーツグループ ☎ 52-1111 (内線 331)